

おのえづわ

奉祝 天皇陛下御即位三十年



神門の大注連縄

中富良野町有志で結成されております、「中富良野俵神輿同志会」の皆様より概ね4年に一度ご奉納を頂いております。

第一回の奉納は札幌神社(現・北海道神宮)の御鎮座九十年の佳節に、皇太子殿下の御成婚を奉祝して
昭和三十四年六月十三日に行われました。



ご挨拶

宮司 吉田源彦

境内を巡っておりますとようやく北の大地にも春の便りが感じられるこの頃となって参りました。皆様方にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

畏れ多くも天皇陛下には御即位三十年を迎えられることとなり、常に国民に等しく思し召されたこと恐懼に堪えません。今上陛下への敬慕と感謝の念が全国津々浦々で昂るものと拝察されます。かかる佳節を皆様と共にお祝い致したく存じます。

明治二年、明治天皇には「蝦夷開拓ハ皇威隆替ノ関スル所一日モ忽ニス可ラズ」との勅語を開拓使長官鍋島直正公に下されて本格的な開拓が始まりました。北海道の発展は明治天皇の大御心によるものでございますが、また同時に数多の先人の労苦によられました、今日の北海道が築かれたことをわすれてはなりません。北海道開拓事業に先立ち東京の神祇官にて「開拓三神」が鎮斎されました。これが、北海道神宮の創祀にあたります。

時の判官島義勇は御霊代の事に任じ、海路・陸路の險難を冒し、札幌を拓いて奉衛し、昭和三十九年に明治天皇を御増祀して以来、北海道総鎮守として多くの御崇敬を頂いて今日まで至っております。

昭和十三年、北海道庁長官石黒英彦氏により創建されました開拓功労者をお祀りする境内社開拓神社は創立より八十年を迎える事となります。是は偏に多くの崇敬者・道民の皆様方の崇敬の真心によるものと感謝申し上げます。私共は三十七柱の御祭神を通して、数多の開拓事業に携わった人々に感謝の至誠を捧げたく存じておりますので、皆様方には何卒引き続きの御崇敬を頂きますようお願い申し上げます。

最後になりますが、御祭神の御加護の下、ご自愛頂きまして健やかにお過ごし頂きますようご祈念申し上げます。

祭典行事案内

毎月

〔二 日〕月首祭並吟詠講誕生祭
一日参り(※一月・九月を除く)

〔十 日〕旬祭並敬神婦人会誕生祭

〔十五日〕月次祭並むすび会誕生祭

〔二十日〕旬祭並興風会献詠祭

◆ 四月

三 日(火) 午前九時 神武天皇祭
遙拝

十四日(土) 午前十時 開拓判官
島義勇顕彰祭

二十九日(日・祝) 午前十時 昭和祭

◆ 五月

四 日(金・祝) 午前十時 植樹祭

十三日(日) 午後一時半 奉賛会大祭

頓宮 札幌市中央区南二条東三丁目

毎月〔二 日〕 午後六時

月首祭並一日講社誕生祭
(※一月は午前十時)

◆ 五月

一 日(火) 午後五時 一日講社物故者

慰霊祭

北海道一五〇年

札幌本府

百万都市

予言の構図

島は、明治二年十一月十日、コタンベツの丘といわれた北海道神宮裏参道の小山に立っていた。大小を腰にたばさみ、丁髷姿。腕を組み、東方へ鷹のように鋭い目を光らせていた。

当時、二代目開拓使長官の東久世通禧は、函館在勤。札幌市長ともいえる島は、本府の創建を一任されていた。

島が見渡す石狩の野は、すでに雪である。新しい街づくりは、白い大きな紙に自由奔放にデッサンするようなものだった。島の胸には京都の町並みが浮かんでいた。いまのような都市を夢みていたかどうかは定かではないが、白い大地のちようど真東にあたる地点に、一本の基線を描いた。いまの札幌市南一条である。その三年前には、一万両

の大工事といわれた大友堀（現・創成川）が完成しており、南北について東西の線引きがなされた。

その三日後、島は函館にいる岩村通俊判官に、任地の状況を報告している。

「今般府を取建場所の儀は銭函を去ること四里、手宮を去る七里余、又石狩より凡五里を相距て四方広漠たる平原にて地勢最絶妙。手宮等の如きは実に横浜にも相増可申。往々開拓の実効相立候上は必ず一都府を成すの勢い顯然と被存候」。札幌に対する惚れこみようが行間になじむ。島は『北海道紀行』に「他日五洲第一都」との詩も載せ、札幌は後日、世界第一の都になろうと予言している。

さて、首都づくりは、どんな手順で進められたのか――。その道程では、食糧不足、派閥による暗闘が展開される。

開拓三神の御霊をささげた島は、汽船で函館に上陸するが、ただちに札幌入りしたわけではない。札幌まで満足な道路もなく、小樽に近い銭函に仮役

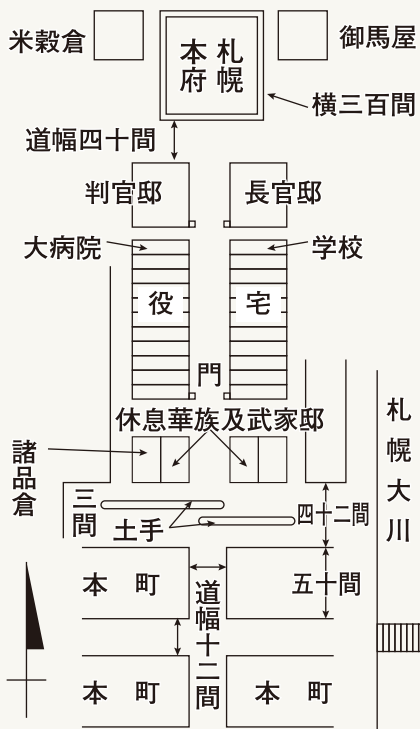
所を置いた。ここで開拓の構想を練り、新道掛の林、長尾、宮繕掛の富岡、阿部らの小主典を先発隊として札幌に向かわせた。彼らは、豊平川岸の猟師、吉田茂八の家を基地にし、渡守志村鉄一らをガイドにして、未開の荒野を見て回った。そして、いまではビル街の中心地になっている中央区大通西四丁目に仮小屋を建てて札幌出張所とした。

だが出張所とは名ばかり。雪の下の雑草を集めて屋根をふき、持ってきた



南一条に架かる創成橋と本陣

札幌本府の原図



わずかの板で壁を作った。床には、茅を敷いた。この掘っ立て小屋が、札幌に誕生した最初の役所だった。

札幌の大地に足を踏み入れた島は四区画を設け、現在の道庁からやや東北の一角に三百間（五百四十メートル）四方の本府用地を設けた。島が描く京の大内裏である。その南側正面からあたかも朱雀大路のような大道を南へ走らせ、その両側には官邸、学校、病院などの公共建造物を建てる。さら

に、幅四十二間（七十六メートル）の大通りを東西に通し、ここに土手を築いて、北部の官用地とさえぎり、大通りの以南を民間の用地とする——北の雪原に建設のツチ音は響いた。

まず最初の建設は、判官の役宅だった。元村（札幌市東区元町）の創設者で、大友堀を掘った大友亀太郎の居宅を移し、島邸は完成した。集議局とも呼ばれ、首都建設の会議が開かれた。島は、毎日銭函の仮役所から馬で往

復、工事を指揮した。二十日間の突貫工事の末、どうやら役宅はそろい、島は十二月三日、札幌に腰をすえた。工事で島を苦しめたのは、雪や寒波ではなく、食料不足だった。石狩地方は、兵部省（海陸軍をつかさどる）の管轄であり、兵部省は会津降伏人をこの地方に入地させる計画を進

め、その準備に大わらわだった。ところが、政府は義勇に札幌本府の経営を命じたため、札幌地方は二重支配の形となった。

兵部省の現地官吏にしても、食糧を本府に回す余裕がなく、島らはたちまち飢餓に襲われた。食糧を回せ回さないで反目抗争があった。首席判官である島には「兵部省の木っ端役人を相手にできるか」というプライドもあった。

豪気な島は、金を惜しまず食糧を買いあさった。食糧集めのためには、漁場の親方も役人に登用した。大友には辞を低くして、食糧調達に協力してくれるよう要請した。過労のため、目を患っていた大友に、島は自分の兜にしまっていた守り本尊・妙見菩薩の小像まで贈ったほどだ。

しかし、大友はすでに兵部省に仕える身であったため、島の友情には感謝しながらも、島の苦境に手を貸すことにはばかった。

この兵糧攻めの背景にあったのは、藩閥意識である。兵部省は、政府の主流をなす薩長出身者が牛耳っていた。島は、肥前(佐賀)の出。石狩にいる兵部省の下級役人も「肥前者が大きい顔をするな」と島への対抗意識をかくさなかつた。



大友 亀太郎



鍋島 直正

突貫工事や食糧調達で、島は資金を湯水のごとく使った。東久世は函館着任の時、現金八万円(いまの金で約八億円か)を携えてきたが、島はそのうち六万円を持って札幌入りしていた。

「大事は長官と協議しなければならぬが、小さな事は自分の判断でやるように」

島は、東京をたつ時、政府からこう指示された。その言葉通り、思い切り腕をふるった。

島は翌三年一月、東久世に資金の追

加を要求した。東久世は、あまりにも早い財政窮乏と、それにもまして島の独断専行を快しとしなかつた。長官は、政府に対して島をやめさすか、経費を追加するか、どちらかの措置をとるよう訴えた。

「島義勇 至急上京せよ」

二月二十一日、政府の命令が札幌に届いた。島には「免職」を意味することがわかつた。札幌入りして、わずか三か月だった。島は、札幌を離れる日、次のような詩を残した。(口語訳)

「雪中の設営、思うにまかせぬことが多い 小者どものやきもきするものもふしぎでない 小島は大鳥の気持ちをもどうしておしはかれようぞ ほうこひょうが 暴虎馮河とつぶならば、呼ぶにまかせよう」

島が去った直後の札幌の状況を、磯谷郡を担当していた米沢藩士の山田民弥は『惠曾谷日記』の中で、次のように書いている。

「役所は五軒、本陣(宿泊所)が一軒。秋田屋という宿屋が一軒。そのほか、大

工、かじ屋、人夫小屋などが五、六軒あつた。所々に棒ぐいが立ててあつて、町割、屋敷割がしてあつた」
島の雄図は断たれたが、都市の雄大な骨格は、がっちりとすえられた。



開拓判官島義勇の役宅
(明治4年)

明治2年12月3日、銭函の仮役所からこの役宅に開拓三神の御霊代が奉遷された。現在の北2条西1丁目辺り。

◆葉隠武士の島

島は、松浦武四郎の意見を聞いて、来道前に書いた「札幌大府指図」では、南北軸で北の首都を創建することにしてきた。しかし、実際には大通りを境にした東西軸に変えた。その理由を北海道工業大の遠藤明久教授は、次のように分析する。

「本府計画区域内に、幾条にも流れていた豊平川支流の存在が、最大の変更因子と考えられる。南北方向に蛇行する小川の多い地形で、南北軸計画、つまり南北方向に幹線道路を設けるよりは、水流に直交する道路を作ったほうが工事はやりやすい」

東西軸採用に、土木技術上の判断があった、との説である。

「葉隠武士」の島は、二十五歳の時、佐賀藩士・鍋島直正（初代開拓使長官）の側近に仕え、江戸に上った。江戸で、知行合一を重んじる陽明学を学び、所信を断行する気性をみがいた。

幕府が安政四年（一八五七）、北の守りを固めるため、北辺巡見を計画した際、島は箱館から黒松内、小樽、宗谷、根室、室蘭などを視察した北海道通でもあった。

「島は豪気な反面、慎重居士であったことは、道庁赤レンガに所蔵されている島直筆の手紙からもわかります。紙のうしろには必ずサインのほか判を押している。普通の人はどちらか一方です」

道行政資料課の鈴江英一さんの話である。

「色は浅黒く短気だったようです。札幌市庁舎ロビーにある銅像などと比べてりして私は義勇によく似ているといわれます。古い文献を読むと、資金の使い過ぎで免職になったとありますが、札幌入りの時から、すでに予算不足だったんですよ」

島の四代目の子孫の井手不二雄さん（神奈川県川崎市在住）の述懐である。

札幌で生まれた作家の森田たまさん

は『フロンティア』（北電のPR誌）の中で、道都のことを次のように書いている。

「札幌に育って良かったと思ふことの一つは、一間六尺、一町六十間といふ数を目分量で計れることである。いまは、ビルがによきによき建つおかげで、一町もよくわからないにちがひないが、私たちの時代はすべて平屋、せいぜい二階建てであったから、一町の区切は実にはつきりしてゐた」

島、江藤新平らが起こした佐賀の役は、内務省大久保利通の手で鎮圧された。島のあとを襲って開拓使判官をつとめた岩村通俊は、大久保の幕僚として島らを討った。敗れた島は波乱の生涯を閉じた。時に五十二歳。

これより先、島の大なる首都創建の構想は岩村にバトンタッチされ、「御用火事」などを経て、都市の基盤を築くことになる。

「北海道の百年」

読売新聞北海道支社編、一部訂正

北海道一五〇年

蝦夷地・北海道

「開拓」の

光と影



北海道大学教授
谷本 晃久

丘陵地帯にあかねさす紫の日差し。雄大な夕陽が色とりどりの斜面を照らしている。場面は上川郡美瑛町付近、いわゆる「パッチワークの丘」。自然豊かな北海道の大地を象徴する風景として、観光案内のポスター写真やインターネット上の画像にとりあげられることもあるから、御承知の方も

多いだろう。

しかし、よく考えてみると、この美しい景観は、自然のものではない。一面に広がる丘陵は森林を切り拓き農地に整備されたものであり、色とりどりの畑地は試行錯誤を重ねてなった輪作の姿だ。いわば、入殖者による開拓事業の血と汗の結晶として、この景観はつくられたものとみななければならない。

一般的に北海道の開拓は、五畿七道に加え北海道を置き、石狩・渡島など一ヶ国を設け、さらに郡・村を区切った際に、そのほとんどを「無主地」＝「国有未開地」とみなしたことはじまる。おむね一五〇年まえのことである。「未開地」を「原野」に区切り「殖民地」を設け、入殖者を募って土地を貸し付け開拓をせしめ、一定年限のうちに当局が検査し、成墾の見込みが認められれば土地の所有権が付与されるのである。美瑛に関して言えば、ピエ（美瑛）原野の殖民地区画がなされたのが明治二六

年（一八九三）、貸付開始が翌二七年であるから、二一四年の歳月が、現在の景観をなしたということになる。

統計によると、北海道設置時点で一〇万人程度であった人口が、二〇世紀に入った時点で一〇〇万人を超え、一九二五年（大正一四）には二五〇万人に達した。およそ五〇年で約二五倍に増加している。この間、先住のアイヌ民族の人口はおおむね二万人弱で推移しているから、本州以南からの移住者による「開拓」が、先住民族を圧倒的なマイノリティとしつつ、北海道の人口構成を劇的に変えたことが明らかである。美瑛のみならず、移住者によりつくられた景観は北海道各地にあったとみてよいだろう。

いま先住のアイヌ民族について触れたが、美瑛の「開拓」に即して続ければ、原野名のピエはアイヌ語 *pie*（油）に由来する美瑛川筋に位置したことによる。幕末にこの地を訪れた松浦武四

郎は、その著『近世蝦夷人物誌』に「石狩上川なるチクベツ・ピエ・ベベツの土人等は相互に山中にて出合て山猟し、往來もなしてあり来りしとかや」と記している。ピエ(美瑛川筋)のアイヌ民族が、チクベツ(忠別川筋)やベベツ(美瑛川支流辺別川筋)のアイヌ民族とともに、この地に狩猟を営みつつ暮らしていたことが髣髴とされる記録である。「開拓」に伴い、後に旭川近文に設定された「旧土人保護地」への移住を余儀なくされたこの地のアイヌ民族の視点からみれば、美しい景観もまた違った視点で見えてくる側面のあることも、わたしたちは共有しておくべきだろう。

このように、北海道一五〇年の「開拓」の歴史は、先住民族の歴史と交錯しつつ、従来の水産業に加え、本州以南からの移住者による農地開墾や鉱山開採を軸に進められた。しかしながらこのテーマは、北海道設置以前からも確認できる、重要な問題である。

このテーマは、北海道が「蝦夷地」と

称されていた一八世紀以降のロシアの隣国化と密接に連動しつつ推移する。それへの外交的対応として、田沼意次や松平定信が幕閣を率いていた一八世紀末にサハリン南部ならびに南千島に「異国境」が設定され、それが幕末・維新期の日露間条約の国境条項に反映する。そして、「異国境」の内側の内国化をはかるため、幕府は蝦夷地を直轄し、たとえば「百物百工」と表現される開墾や殖産を含む様々な開拓策が進められた。その一方で、本州北部の飢饉の影響で蝦夷地、とりわけニシン漁で賑わう日本海沿岸への和人の出稼ぎが恒常化し、事実上の集落が形成された点は見逃せない。彼らは幕末まで代を重ねて地域に根差し、積丹半島神威岬のヲカムイ信仰や石狩川河口の鮫神信仰など、蝦夷地ならではの信心を創出した。北海道に暮らす人々の個性は、「開拓」以前からみられた移住者たちの歴史を

も踏まえて考える必要がある。

なお、日露間のせめぎあいのなかで、先住民族であるアイヌ民族の存在がクローズアップされる場合のあったことは重要である。日本は、蝦夷島・千島・サハリン南部の先住民族であるアイヌ民族を和人と同祖であると論じ、同化政策を進めつつ、「蝦夷地」の日本支配の正当性を主張した。一方ロシアは、アイヌ民族を民族集団としてみなし、その去就を問題としたのである。このようにアイヌ民族の先住権の問題は、古くて新しいセンシティブなテーマである。

こうしてみると、北海道の歴史は、北海道設置以前を射程に入れて考えるとその本質が見えてくる点が少なくない。島判官の札幌本府建設も、蝦夷地踏査の経験を活かして考えることはできない。「開拓」の歴史を振り返る際には、押さえておきたい視点である。



心游舎 ワークショップ

三笠宮彬子女王殿下には子供達に日本文化の美しさと多様性を伝え、伝統文化に触れる機会を提供したいとの思い召しを以て、日本の文化継承している各地の神社を中心に日本人の心の中にある神々への祈りと感謝の気持ちに想い馳せられ、精力的に活動の場を広げておられます。



子供達の「ワークショップ」を御覧になる



先生の指導を受ける子供達

平成三十年三月三日(土)午前十時より彬子女王殿下が総裁を務められております一般社団法人心游舎のワークショップが北海道神宮参集殿にて開催され、九谷焼窯元・上出長右衛門窯の六代目に当たる上出恵悟先生により「九谷焼をもっと身近に」との思いで先生が開発された「クタニシール」を用いた「自分だけの九谷焼湯呑を作るワークショップ」が開催され、約四



雪像と共に

十名の子供達が体験しました。彬子女王殿下には子供達の体験の様子を親しく御覧になられ、お声掛けされておりました。終了後はボーイスカウト有志が一周間かけて製作した雪像を子供達と御一緒に御覧になられ午後十二時三十五分に御出発になりました。



社頭風景

十二月
三月上旬

天長祭

天皇陛下には畏くも八十四歳の御誕辰を迎えられました。北海道神宮では、宝祚の無窮を寿ぐべく、十二月二十三日(土・祝)午前十時より天長祭を斎行しました。

宮司以下祭員、祓戸で修祓の後、本殿に進み、巫女による「豊栄の舞」を奉奏し、一同で「天長節」を唱和し、宮司以下祭員・参列者が玉串を以て拝礼して、宏遠悠久なる聖寿の万歳を言祝ぎました。

祭典終了後、参列者には奉祝の紅白の大福餅が配られ、引き続き参集殿で直会が行われました。



「豊栄の舞」

師走の大祓・除夜祭

十二月三十一日(日)午後三時より師走の大祓を神門下の祓戸にて斎行しました。

宮司以下祓戸に参進し、切り麻で身を祓い、続いて本殿に於いて除夜祭を斎行しました。祭典終了後は参列者には



師走の大祓

御守りと撤下品が授与されました。大祓は罪・穢れを祓い心身ともに健全となつて生きる力を神様より授かる行事でもあります。二年の節目にあたる六月三十日と十二月三十一日に大祓の行事を斎行しております。皆様お誘い合わせの上、ご参列下さい。

北海道神宮
年末・年始



元旦 社頭



餅つき(12月27日)



煤払い(12月26日)



元始祭(1月3日)



歳旦祭(元旦)



祈請祭(1月22日)



昭和天皇祭遙拝(1月7日)



古神札焼納祭の様子

古神札焼納祭

一月十四日(日)境内の弓場に於いて、古神札焼納祭を斎行しました。古神札焼納祭は、皆様方が一年間に亘り御守護していただきました御札・御守などを感謝の真心を捧げて神社に返納して頂き、これを神職が祓い清め、御神火により焼納する神事です。当日は北海道神宮校祇講の方々の奉仕を頂きました。

焼納祭は色々なものが持ち込まれますが、神事とは関係ない日用品などは御遠慮頂き、自然環境を守るためにも分別にご協力下さい。

第八回新成人寒中禊



寒中禊

一月二十八日(日)正午より、新成人十九名を迎え、第八回新成人寒中禊会が行われました。当日は凍てつく寒さの中、指導神職より禊行事に於ける諸注意、心構え等の説明の後、予行練習を行い本番にのぞみました。

体験した新成人からは、「貴重な体験を通して新成人としての自覚が芽生えました。感謝の気持ちを忘れずこれからの人生を歩みたい。」などの感想が聞かれました。

節分祭

二月三日(土)午後三時より本殿にて節分祭が斎行され、終了後、午後三時五十分より神門内に設けられた特設舞台では豆打ち行事が行われました。

北海道神宮舞楽会による三条神楽の笛・太鼓に合わせ、金棒を振り回す赤鬼・青鬼が登場し、吉田宮司他袴姿の年男・年女の方々が「鬼は外・福は内」の掛け声と共に豆を撒き、鬼は「目散」で退散し参加者より大きな拍手が沸き起こりました。続いて恵比須・大黒が登場し邪気を祓った旨が告げられると、一陽来復を願って福銭や紅白餅が撒かれ、境内は集まった人々の春を迎える歓声に包まれました。



特設舞台での豆打ち行事

紀元祭

神武天皇が橿原の宮で高御座に昇られてより、二千六百七十八年にあたります。

二月十一日(日・祝)午前十時、宮司を齋主に神武天皇の偉業を景仰し、厳肅に斎行しました。神饌が供せられ、齋主の祝詞は神武創業を言祝ぎ、巫女による「豊采の舞」を奏し、宮司以下参列者が玉串を奉り、一同で「紀元節」を唱和し、建国の古に立ち返り新たななる感激のもと、皇統の弥栄を言祝ぎました。



祝詞奏上

武雄市 児童交流団参拝



開拓判官島義勇像と共に

二月五日(月)佐賀県武雄市児童交流団二十名が参拝しました。本殿での参拝後、島義勇開拓判官の銅像を見学し、初代北海道開拓使長官鍋島直正公・島義勇開拓判官が開拓功労者として祀られている開拓神社を参拝しました。児童達は郷里佐賀が輩出した偉人の事績説明を熱心に聞き、「更に勉強を励み、人格を磨き鍋島直正公や島義勇開拓判官のような立派な人物になりたい」との感想が聞かれました。

建国記念日 奉祝道民の集い

二月十日(日・祝)午後二時よりホテルロイヤル札幌で日本会議北海道本部の主催にて約五百名の参加者で開催されました。「オーピングセレモニー」として札幌北響太鼓の勇壮なる調べが会場に響き渡りました。

第一部式典では、皇城・橿原神宮遙拝、国歌斉唱の後、日本会議北海道本部会長中川義雄氏より挨拶が述べられ、高橋はるみ北海道知事(代理・北海道公営企業管理者・浦本元人氏)、衆議院議員船橋利実氏、前衆議院議員高木広壽氏より祝辞が述べられました。

引き続き
東海大学教
授の山田吉
彦先生より



講演会会場



海の幸・山の幸を供する

「海洋国家日本の進路」と題して講演があり、海洋国家である我が国の主権を守るためには防衛力強化と憲法改正の必要性を力説されました。

その後、第二部として参加者による奉祝パレードがホテルロイトン札幌より大通西四丁目まで行われました。

祈年祭

我が国の古称である豊葦原瑞穂国とは「稲が豊に実る国」を意味します。瑞穂の国の美称が物語ります様に、我が国に於ける生活資源であります農産

物わけても米作を通じて国民の生活全

般を支えられてきました。神社の祭祀

もその多くが農業に関係ありますが、

特にそのなかでも、重儀とされたのが祈

年祭と新嘗祭です。米の一粒一粒に宿る

ところの靈威によって民族の生命が永遠

に保持されると信仰され、米に対する

感謝の思いは、二層特殊な信仰的地位ま

で昂められ、「勿体ない・ありがたい」とい

う気持ちを以つて之を「いただく」という

生活習慣を形成しました。

二月十七日(土)午前十時、祈年祭を

厳かに斎行しました。神門下の祓戸での

修祓の後、宮司以下諸員は本殿へ参進

し、海の幸・山の幸を神前へ献じ、祝詞奏

上、巫女による「悠久の舞」を奏し、宮司

以下参列者が次々に玉串拝礼を行い、

今年の豊作を祈りました。

祭典終了後は参集殿にて直会が行

われ、五穀豊穰と更なる北海道の

産業の発展を祈り、意義深い祭典を

終えました。

ひな人形展

北海道神宮では、豊かな四季折々のなかで営まれてきた年中行事を通して、我が国の伝統・文化に触れていただくこうと、祈禱者控殿に於いて二月八日(木)より三月十二日(日)までひな人形展を行いました。

札幌在住の人形作家である山田祐嗣氏所蔵の明治から昭和までの人形と、当別甲斐の会作製の吊し雛の展示を行い多くの参拝者の方々より好評を頂き終了しました。



控殿でのひな人形展

年末・年始

北海道神宮頓宮（札幌市中央区南二条東三丁目）に於いて、年末・年始の諸祭典・諸行事が滞りなく行われました。

昨年十二月三十日（日）午後三時より、本殿にて師走の大祓が斎行され約百五十名の参列者一同で心身を祓い清めた後、引き続き除夜祭が執り行われました。



元旦社頭



豆打ち行事

元旦（月）午前十時より、本殿に於いて歳旦祭並びに二日講社誕生祭を約四十名の参列者により行われました。

一月十四日（日）午前十時より、古神札焼納祭が近隣の方々のご協力の下に行われました。

二月三日（土）午後五時より、節分祭が本殿に於いて約四十名の参列者にて斎行され、引き続き午後五時三十分より境内に於いて豆打ち行事が行われました。

一日講社 創立九十周年

昨年、平成二十九年に北海道神宮「二日講社」は創立九十周年を迎えました。昭和二年に敬神の念の昂揚と、会員の安全を祈念し、相互親睦をはかることを目的とし、「二日会」として発足しました。毎月一日に遥拝所（現・頓宮）への参拝、境内清掃、植樹奉仕始め、祭典に奉賛しました。その後、「二日会」の精神を引き継ぎ昭和六年には講社組織に変更して「札幌神社一日講社」と名称変更して現在に至っております。

平成二十九年十月二十一日（土）頓宮社務所にて、九十周年記念式典が盛大に開催されました。



吉田宮司挨拶

特集

がんばれ！
北海道

開拓の群像特集

合田 一道



歴史から見えるもの ④2

父子で洋船を建造

続豊治と福士成豊

続豊治は幕末期の箱館（現在の函館）で初めて洋型船を建造した人です。福士成豊は続豊治の子ですが、幼いころ回船問屋の福士



続 豊治

家の養子になり、後に父子で洋船造りに励みます。成豊はさらに全道的な測量に携わり、北海道開拓の礎を築きました。

豊治は松前の船大工の家に生まれましたが、すでに父親は亡く、母は二歳の幼子を箱館の船大工の養子に出します。十四歳になった豊治は奉公に出て造船学を学び、やがて高田屋嘉兵衛の弟の金兵衛が設けた造船所に採用され、船造りに没頭します。

豊治の造った船は高田屋の持ち船として、オホーツク海から日本海にかけて駆けめぐります。金兵衛に従い江戸から浪速を見て回った豊治は、洋型船を造るといふ大きな夢を抱きました。ところが高田屋が突然、没落してしまいます。がっかりした豊治は船大工を辞めて仏壇師になり、仏壇ばかり造る毎日

した。

二十年ほど経過した嘉永六年（1853）、アメリカのペリー艦隊が浦賀に来航し、開国を迫りました。翌年、再び来航し、おののいた幕府は下田と箱館の開港を約束します。ペリー艦隊五隻がそのまま箱館にやってくる。松前藩は住民たちに近寄らないよう触れを出します。

軍艦の見取り図が欲しい豊治は、夕暮れ近く密かに磯舟を操り、アメリカ艦のバンタリアン号の周囲をぐるぐる回って観測図を書き上げました。ところがアメリカ兵に見つかり、番所に突き出されます。

アメリカ艦隊が去って、豊治は箱館奉行堀利熙に呼び出されます。てっきり処罰を受けると思っていたのに、奉行は豊治の志を讃え、沖の口陣屋詰めに採用したのです。喜んだ豊治は外国船が入港するたびに港に行き、船内を視察し、船の図面を作り上げました。

安政二年（1855）、箱館奉行の命を受けた豊治は、船大工の細工小屋を借り、独力で和洋折衷の端船の建造に取りかかり、翌年夏、竣工させます。奉行は豊治を船大工棟梁に抜擢し、スクーネル型の船の建造を命じました。豊治はすぐ建造に着手し、福士家の養子にしていた十七歳になるわが子卯之吉（後の成豊）に手伝わせて、翌安政四年夏、竣工。その名も「箱館丸」と命名されました。

折から堀奉行は江戸勤務になり、処女航海の箱館丸に乗船して豊治父子とともに出帆、無事、江戸の品川沖に到着。帰りは箱館勤務になる竹内保徳を乗せて箱館へ戻りました。箱館奉行は三人いて、江戸、箱館、それに蝦夷地廻浦の役を交替に勤めていたのです。この航海により、豊治の名声は一際高まりました。

箱館御船大工棟梁という船工職の最高位に就い

た豊治は、二隻目のスクーネル船「亀田丸」の建造を命じられます。早速、成豊を指導して造船に取り組み一年がかりで竣工させました。豊治は六十二歳、成豊二十二歳。父子による見事な成果でした。

豊治は晩年、片目の視力を失ったが、洋型船十五隻を造り上げ、最後の「樺太丸」を完成させた二カ月後の明治十三年（1880）三月に亡くなりました。八十三歳でした。

父の薫陶を受けた成豊は、箱館に滞在中のイギリス商人のブラキストンと知り合い、測量学、機械学、測候学、博物学などを学び、明治維新後は開拓使に入り、正確な北海道地図を作成するため、函館地方沿海の測量を行いました。ロシアに赴き、その見聞を「東察加紀事略」として提出。東京―青森間の緯度の測定をして時差を求め、さらに函館の副基点を測量して北海道の三角測量が全国測量と結びつく基礎を作り上げるなど、数々の功績を残しました。



豊治が建造した箱館丸＝復元（函館市）

プロフィール

昭和九年（一九三四）、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。定山坊行方不明の謎で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』八間登場ノ北の歴史を彩る『大君の刀』など。

奉賛会だより

北海道神宮奉賛会

『大祭』並びに『総会』のご案内

奉賛会会員の「家内安全・心身健全・生業繁栄」を祈願する『大祭』と『総会』を左記のとおり開催いたします。

会員の皆様には、万障お繰り合わせの上、ご参列ご出席賜りますようご案内申し上げます。

◆日程

平成三十年五月十三日(日)

午後一時三十分

『大祭』(本殿)

引き続き

『総会』(参集殿)

◆総会議事

一、平成二十九年年度
事業報告並びに
収支決算の件

一、平成三十年度事業計画(案)
並びに収支予算(案)の件

新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。

平成二十九年十二月から三十年二月末日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。
(敬称略・順不同)

新入会員のご紹介

富松 政美
大坂 壮志
齋藤 一彦
今井 建
齊藤 久之
林 辰司
武内 秀介
富岡 百合子
安井 陽一・香奈子
工藤 孝和
北本 修平
高橋 正人
小原 修幸

協賛者のご紹介

◇五万円

(株)東家寿楽 代表取締役 佐藤 元治

◇二万円

田中 則久
吉田 美智子

神坂 義明
ホクエウテクニカ(株) 代表取締役 北越 孝

◇一万五千元

富山 義賢

◇一万円

(南)津島興業 代表取締役 津島 明美
(株)中昭 中井 昭一

(医)西野おおくは整形外科 大久保 隆夫
三上 直彦 中田 隆博

道路工業株式会社

大西 博志
平山 晃也

久保 成昌
久保 わかさいも本舗

(株)北菓楼 代表取締役 堀 昭
ヤハラ消防設備(株)

(有)北陽写真場 代表取締役社長 小田切 修
長谷機械商事(株)

(有)中村物流 代表取締役社長 中村 紀行
三王印刷(株)

北海道日通プロパン販売(株)

(株)高島建築設計 高島 潤一
興亜防災設備(株)

(株)タイコ企画サービス 本山 公人
(株)アリカプランニング 代表取締役 有我 充人

吉岡硝石工業(株)

(株)カネイ小川 鹿内 健一郎
(株)鹿内青果 代表取締役

六花亭製菓(株)

越前屋 薫 萩野 隆章
(有)喜久一本店

泰生汽船(株)

◇五千元

石川原 富美子
出村左官工業(株)

真田 修一
八尾師 絹子

株式会社シグナル 代表取締役 赤沼 泰弘
植木 光敏

杉本 昌三

横山 優
(株)進栄技術コンサルタント

後藤 淳子
大黒 恵美子

久保 純
馬酔木 洋子

藤崎 雅士

土谷 七郎

米坂 進

山崎 新一

後藤 久一

松野 丈夫

庄田 澄子

河原 清光

盛 まなみ
牧 康浩

武田 美喜男

北海道科学技術研究所

玉置重雄

矢口 憲雄

(株)花田新聞店 花田 定男
梅沢 勢子

中村 康

山本 晃靖
中村 利義

朝倉 英隆
医療法人社団 宮の森皮膚科

村本 和正
小笹 國子

藤江 岩男
合同会社 若駒 代表取締役 櫻井 慶一

市橋 武道
中山ミシン商事株式会社 中山 菊雄

深尾 喜陸
油井 昭造
(株)みづら保険事務所 代表取締役 三浦 昭男
 紫藤 正行
 駒野 幸一
(有)大関調剤 代表取締役 大関 博敬
北陽ビルサービス(株) 代表取締役 其田 雅人
 武田 勇助
 作井 睦子
有)限会社 ココウエスト 取締役社長 大西 仁詩
(株)テンシヨウ 代表取締役 太田 修
(有)女子道社
 對馬 眞智子
 山崎 勝
 我妻 慶祐
踊翠流剣舞繪本部 菊池 誓子
渋谷ネーム工芸 澁谷 十九男
 寺沢 一敏
 三上 政輝
 金野 シゲ子
 藤田 勝也
 桜井 和久
 船見 由貴
 下前 良
 石黒 靖規
 中能 雅和
 竹田 博泰
 齊藤 寧・久美子
 福士 郁弘
廻能文
(株)ケーエフシー・マスディック 江口 洸
 山本 巖
 太田 秀造
 松川 伸一
 長田 守弘
北海道電子機器(株)
 鈴木 憲治
 鳥居 幸子
 濱谷 文吉
 西山 眞吾
 庄内 喜久子
 佐藤 秀樹
(株)加藤物産館

加藤 俊郎

寺島 博美
ダスキンあいとびあ
 ◇三千元他
 福園 敏行
 永森 奨樹
 小野 まき子
 小沢 幸司
 花本 政則
 佐々木 幸雄
 繩 健一
 折戸 利輔
 吉田 晶子
 中道 和己
 佐藤 久直
 猪狩 金次郎
スズキ齒科
 浜本 茂
 藤田 民子
 鎌水 博樹
 合田 雅行
 杉山 陽子
 妻木 悦朗
 武田 美奈子
 神忠弘
 弁護士
 宮城 庸子
 岩間 邦子
 坂本 和也
(株)コウキ
 高嶋 正男
 大関 雅朗
 高梨 剛
 関口 フミ子
 久保 洋子
 吉田 法子
 佐藤 哲也
 板垣 庄一
 金野 イシ
 鈴木 良江
 濱田 哲也
宮の森幼稚園 園長
 笠原 亮子

阿部 聖和

高梨 桂二

板垣 光夫

澤井 利之

鈴木 文男

西野 浩
 東 重孝
 中西 昭弘
(株)バンテック
 藤井 浩二
(株)都心ビル
 中澤 晴彦
 菅原 浩了
 佐々木 都紀子
 山口 日出志
 真崎 千穂子
 安齋 英男
 浜口 武
 三浦 和夫
 佐藤 勇
 木村 美智子
 三浦 清志
 桑原 啓行
 金坂 孝敏
 安久津 皐
 今川 昌樹
 西田 善彦
 田中 美知子
(株)まるいち
 信本 明子
 西村 ちよし
 長田 博
 多田 良子
 福田 賢治
 伊藤 ミノル
 塩沢 三枝子
(株)君津特殊
 井場 将夫
 津川 由美子
 長谷部 克哉
 佐々木 真次
 松野 敏昌
税理士法人さっぽろ税務会計 代表社員 阿部 真澄
 藤井 一徳
 出崎 智治
 寺井 伸
 中田 克幸
 中江 節子

齋藤 友子

情野 隆
 多田 洋子
 南部 士郎
 小山内 清
 湊 堅治
 松浦 寿
(有)ファインテクノ
 相川 昇
 内田 政人
 今野 豊
 鈴木 伸浩
 七戸 長生
 佐々木 國雅
 仁科 啓孝
 香川 睦美
 梶田 宏一
 菅原 政輝
 大久 昌枝
 岡川 一
 中川設計房
 辻 祐二
 久保 剛
 鶴戸 晏子
 中居 毅
 佐藤 子ヨ
 白澤 一夫
 浜本 英之
 村田 賢
 工藤 憲人
 高橋 聖昇
 遠田 深雪
 能戸 志郎
 安井 裕視
 前田 生馬
 藤本 桂
 安部 布美子
 齊藤 慎太郎
 榎木 律子
 久保田 眞理子
 神永 もと子
 齊藤 康平
 坂尻 啓太
 大久保 忠由

咄 良一

中川 義規



枝垂れ桜と島判官像

北の志づめ 第201号

平成30年4月1日発行

〒064-8505
札幌市中央区宮ヶ丘474
電話 011-611-0261
FAX 011-611-0264

北海道神宮社務所